



SB 28、AWGハイライト 2008年6月4日 水曜日

水曜日、補助機関の第28回会合が開始された。SBIとSBSTAは、それぞれの議題項目の大半を議論し、その多くをコンタクトグループでの詳細な議論にまわした。

SBI

SBI議長のBagher Asadi (イラン)が会合の開会を宣言した。議題書ならびに作業計画書 (FCCC/SBI/2008/1)に関し、Asadi議長から、非附属書I国別報告書に含める情報に関する小項目をSBI 29まで保留するとの提案が出された。EUは、SBIにはその議題書に示された項目を議論する法的な義務があると述べ、アンブレラ・グループは、この問題がSBI 28で議論されないことへの失望感を表明した。しかし両者ともこの提案に同意し、締約国は、議題書を提案どおり採択した。

開会ステートメント：多くのものが、技術、適応、資金問題に関する見解を発表、G-77/中国は、資金メカニズムの第4回レビューに注目し、適応基金の運用に関する最新情報を求めた。同代表は、技術移転に向けた投資に関するGEFの戦略計画に失望感を表明、非附属書I国別報告書に関する専門家諮問グループ(CGЕ)に新たなマンデートを与えるよう求めた。アフリカグループは、途上国に無償資金ではなく融資を提供するとの提案に反対した。モルディブはLDCsの立場で発言し、NAPAs実施に対する資金供与の遅れに苦情を述べた。コロンビアは、CDMにおいて収入の一部を徴収し適応に回す手法を他のメカニズムにも拡大するよう提案した。

非附属書I国別報告書：CGE：CGE (FCCC/SBI/2007/10/Add.1 & MISC.7)に関し、数カ国が、COP 13でCGEのマンデート更新の合意がなかったことを嘆いた。カナダと米国は非附属書I国別報告書の重要性を強調した。ブラジルはG-77/中国の立場で発言し、非附属書I国別報告書に関するいかなるレビューにも反対すると述べた。EUとスイスは、AWG-LCAでの計測、報告、検証に関する議論とCGEの作業との関連性を強調した。

資金援助および技術支援：事務局はこの議題項目(FCCC/SBI/2008/INF.3/Rev.1)を提起、G-77/中国は、GEFの資源割当枠組を国別報告書に適用することは受け入れられないと述べた。Emily Ojoo-Massawa (ケニア)とNicole Wilke (ドイツ)がコンタクトグループの共同議長を務める。



資金メカニズムのレビュー：事務局はこの議題項目(FCCC/SBI/2008/INF.4 & MISC.3)を提起した。メキシコは、資金に関して革新的な方法を検討する必要があると指摘した。EUと米国は、GEFが効果的かつ責任のある形で機能していると述べた。このコンタクトグループの共同議長は、Tina Guthrie (カナダ)とBubu Jallow (ガンビア)が務める。

条約4.8条と4.9条：決定書1/CP.10(プエノスアイレス作業計画)の実施進展状況：本議題項目(FCCC/SBI/2008/MISC.4)に関し、Asadi議長は、優先分野の活動を最初に取り上げ、その後方法について検討する二段階方式を提案した。いくつかの締約国が、専門家ワークショップおよび会合前の非公式会合が有用な成果を収めたことを強調した。コンタクトグループを設置、Leon Charles(グレナダ)が議長を務める。

後発発展途上国に関する問題：LDCs (FCCC/SBI/2008/6)に関し、LDC専門家グループ(LEG)が報告を行った。ウガンダは、GEFに対し、事業実施に関する手続きの煩雑さを緩和するよう求めた。Amjad Abdulla (モルディブ)が非公式協議を行う。

技術移転：事務局から文書(FCCC/SBI/2008/5 & 7, MISC.1, and INF.1)が提出された。EGTT議長のJukka Uosukainenは、EGTTの作業について報告した。GEFのRichard Hosierは、技術移転投資の規模拡大を図る戦略計画について報告し、GEF評議会がボンでの検討に付すべき計画案について合意できなかったことに留意した。EUと日本は、GEFの報告を歓迎したが、G-77/中国は、この報告書はバリのマンデートから乖離していると述べた。SBIとSBSTAの合同コンタクトグループが設立され、EGTTの作業計画を検討する、Holger Liptow (ドイツ)とCarlos Fuller (ベリーズ)がこのコンタクトグループの共同議長を務める。SBIの下で技術移転を検討する別なコンタクトグループでは、Philip Gwage (ウガンダ)とHolger Liptow (ドイツ)が共同議長を務める。

キャパシティビルディング(条約)：本議題項目(FCCC/SBI/2008/2)に関し、AOSISは、キャパシティビルディングのモニタリングおよび評価のために費やす時間と資源を最小限に抑える必要があることを強調した。スイスは、実施の進展をモニタリングする実績指標の使用を支持した。Crispin d'Auvergne (セントルシア)とHelmut Hojesky (オーストリア)がコンタクトグループの共同議長を務める。

キャパシティビルディング(議定書)：事務局からこの議題項目(FCCC/SBI/2008/2)が提起された。日本は、議定書ではキャパシティビルディングの包括的なレビューを行う義務が課されていないと述べた。EUは、CDMにおけるキャパシティビルディングの重要性を強調した。D'AuvergneとHojeskyがコンタクトグループの共同議長を務める。



議定書の下での附属書I締約国からの情報に関する報告およびレビュー：事務局は、大半の附属書I締約国が柔軟性メカニズムの参加資格を得たことを指摘した。(FCCC/SBI/2008/INF.2) Asadi議長が結論書の草案を作成する。

議定書3.14条(悪影響)：サウジアラビアはG-77/中国の立場で発言、この問題の重要性を強調し、オーストラリア、EU、日本は、SBSTAの議題項目である議定書2.3条(政策措置の悪影響)の作業との重複を避ける必要があることを強調した。Gertraud Wollansky (オーストリア)とKamel Djemouai (アルジェリア)が非公式協議を開催する。

遵守：この議題項目(FCCC/KP/CMP/2005/2)に関し、日本は、非遵守には法的な拘束力のある影響結果が必然であるとするサウジアラビアの修正案に反対した。サウジアラビアは、COP/MOP 4での議定書修正案の採択を求めたが、EUは、この問題を2013年以降に関する広範な議論に含めるべきだと述べた。Asadi議長が結論書草案を作成する。

9条レビュー：事務局はこの議題項目の文書(FCCC/SBI/2008/INF.1&5 and MISC.2 & Add.1-3)を提出した。アンブレラ・グループ、スイス、ウクライナは、包括的なレビューを求めた。ブラジルと中国は、レビューが新たな約束に結びつくものであってはならないことを強調した。ブラジルは、決定書3/CMP.3の9条レビューで検討されるべき項目は、記載されたものに尽きると主張したが、オーストラリアはこれに反対した。Ana Maria Kleymeyer (アルゼンチン)とAdrian Macey (ニュージーランド)が非公式協議を行う。

政府間会合の手配：本議題項目(FCCC/SBI/2008/4)に関し、ポーランドと事務局長のYvo de Boerは、COP 14およびCOP/MOP 4での適切かつ安価な宿泊施設を確保するため協力していると述べた。

SBSTA

SBSTA議長のHelen Plume (ニュージーランド)が本会合の開会を宣言、締約国は議題書と作業計画書(FCCC/SBSTA/2008/1)を採択した。

開会ステートメント：G-77/中国とアフリカグループは、EGTTが提出した実績指標策定に関する権限について合意するよう求めた。LDCsは、NAPAプロセスの進展とその可能性を指摘、持続可能な生活を推進する上での既存技術の重要性を強調した。

ナイロビ作業プログラム(NWP)：NWP(FCCC/SBSTA/2008/2-5, MISC.3 & Add.1-2)に関し、米国は、締約国が行動提案および行動の約束の実施の怠りを改めることが重要だと主張した。オーストラリアは、現在および将来の作業分野の継続性を歓迎し、NWPが次の段階の仲介役をなることの重要性を説いた。フィリピンは、途上国における観測データの不足を指摘、このギャップを埋めるための

ワークショップ開催を提案した。日本は、適応活動に関するコスト便益分析を強調した。Kishan Kumarsingh (トリニダード・トバゴ)とDonald Lemmen (カナダ)がコンタクトグループの共同議長を務める。

技術移転: 事務局から文書(FCCC/SBSTA/2008/4, INFs.1-2)が提出された。EGTT議長のUosukainenは、EGTTが実績指標の候補策定と試験を提案前に行う手法を提案していると報告した。締約国はEGTTの提案を歓迎、提案された2008-2009年作業プログラムの承認を求めた。日本、その他は、民間部門の重要性に注目した。EUは、2008年、EGTTに65万€の追加支援を行ったことを強調した。カナダは、技術ニーズ評価(TNA)のガイドラインが近く改定されると指摘、米国は、新たなガイドラインが利用可能となるまで、TNAsへの新たな資金援助を行わないことを提案した。スイスは、技術移転の促進には大胆な排出削減政策が重要だと主張した。Carlos Fuller (ベリーズ)とKunihiko Shimada (日本)を共同議長とするコンタクトグループが設置され、SBSTAの結論書草案を作成する。

途上国での森林減少による排出量削減: 事務局はこの議題項目(FCCC/SBSTA/2008/MISC.4 & Add.1-2)を提起した、コンゴ民主共和国はCONGO BASIN COUNTRIES (コンゴ盆地諸国) の立場で発言、歴史的な傾向に則った参照データは、過去の良い行動を否定し罰するものだと述べた。ボリビア、その他は、各国のそして各国内の小地域における政策を強調した。EUは、AWG-LCAでの作業に情報を提供するべきだと述べた。ネパールは、各地の住民の利益を強調、インドと共に、保全に注目する姿勢を見せた。このコンタクトグループは、Audun Rosland (ノルウェー)とLilian Portillo (パラグアイ)を共同議長とする。

関連する国際機関との協力: UNFCCC事務局長のYvo de Boerは、国連の組織全体で行われている気候変動関連の活動および協力を紹介した。(FCCC/SBSTA/2008/MISC.2) SBSTA議長のPlumeが結論書草案を作成する。

研究と体系的観測: 事務局は関連文書(FCCC/SBSTA/2008/MISC.8 & Add.1)を提出した。サウジアラビアは、ローマでの世界食料安全保障のハイレベル会議に注目、バイオ燃料の生産が貧困層に「破滅的な」影響を与えていることを強調した。ブラジルは、バイオ燃料の生産は食糧生産と両立可能であり、排出量を削減し、持続可能な開発を支援するものだと述べた。Arthur Rolle (バハマ)とSergio Castellari (イタリア)がコンタクトグループの共同議長を務める。

緩和: 事務局から文書(FCCC/SBSTA/2008/MISC.6 & Add.1)が提出された。日本、EU、中国、米国、オーストラリア、その他は、作業の重複を避けるため、AWG-LCAにおいて議論を進めるべきであると述べたが、ニュージーランドと南アフリカは、SBSTAでも作業を続けるべきだと述べた。ウル



グアイとアルゼンチンは、二酸化炭素以外の排出量に注目、農業部門の緩和オプションの欠如を強調した。Ermira Fida (アルバニア)が非公式協議を行う。

手法問題(条約)：ブラジル提案：事務局から文書(FCCC/SBSTA/2008/MISCs.1 & 5)が提出された。ブラジルは、この作業が2013年以降問題にも情報を提供すると指摘したが、米国は約束が歴史的な責任に基づくものであってはならないと述べた。Washington Zhakata (ジンバブエ)が非公式協議を開催する。

国際航空および海上輸送：多くの非附属書I締約国は、海上輸送に関する拘束力のある手法を検討するIMOの作業 (FCCC/SBSTA/2008/MISC.9)が共通だが差異ある責任の原則に基づいていないことへの懸念を表明した。EU、ニュージーランド、シンガポール、ミクロネシア、その他は、IMOの作業に支持を表明した。米国は、IMOの決定について京都議定書に先立つIMO自体のマンデートに帰するものだと述べた。木曜日にもプレナリーでの議論を続ける。

方法論問題(議定書):HCFC-22/HFC-23：Jeffery Spooner (ジャマイカ)がこの問題に関する非公式協議を開催する。

炭素回収貯留(CCS)：CCS (FCCC/SBSTA/2008/INF.1)に関し、ノルウェー、クウェート、カナダ、EU、サウジアラビア、日本、その他は、CCSプロジェクトをCDMに含めることを支持した、しかしブラジル、ミクロネシア、その他はこれに反対した。EUは、パイロットフェース手法を提案、日本もこれを支持した。Gertraud Wollansky (オーストリア)とMohammad Reazuddin (バングラデシュ)が非公式協議を開催する。

LULUCF：Anke Herold (EC)とNagmeldin Elhassan (スーダン)が非公式協議を行う。

政策措置：この項目 (FCCC/SBSTA/2008/MISC.9)に関し、日本は、AWG-LCAでの議論との重複を指摘した。Plume議長が結論書草案を作成する。

非公式協議：(AWG-KP)

LULUCF：LULUCFに関する非公式協議で、締約国は方法および規則に関する一連のオプションを検討した。これらの問題に関する協議が、木曜日に再開される。

メカニズム：水曜日午後の非公式協議で、締約国は、CDMに焦点を当てた議論を開始した。

廊下にて

ボンの会場の廊下では、ローマで開催中の世界食料安全保障会議のハイレベル会議が話題となり、数人の参加者は、この会議と2013年以降の議論、なかでもバイオ燃料の役割に関する議論との兼ね



合いに注目した。ある参加者は「今、熱気は全てローマにいている」とコメント、ボンでの膨大な作業量をこなすには「もっと緊急性の感覚」を持つ必要があると付け加えた。

また一部の参加者は、資金問題を議論していた。何人かは、適応基金や資源割当枠組、NAPA実施のための資金など多くの途上国やLDCsにとり重要な問題についてコメントしていた。さらにGEFの戦略計画草案も話題となり、一部途上国の資金メカニズムに関する考え方が今後実現してくるのではないかとの観測が流れた。

今後を目をやると、12月、ポーランドのポズナニで開催されるCOP14およびCOP/MOP4会議の際の宿泊設備とその費用について懸念を表明する参加者の数が増えており、ある参加者は、「12月に雪の中で寝る羽目にならなければ良いが」と冗談交じりに言った。

GISPRI 仮訳

This issue of the *Earth Negotiations Bulletin* © <enb@iisd.org> is written and edited by Tomilola “Tomi” Akanle, Douglas Bushey, Kati Kulovesi, Miquel Muñoz, Ph.D., Chris Spence, and Yulia Yamineva. The Digital Editor is Leila Mead. The Editor is Pamela S. Chasek, Ph.D. <pam@iisd.org> and the Director of IISD Reporting Services is Langston James “Kimo” Goree VI <kimo@iisd.org>. The Sustaining Donors of the *Bulletin* are the United Kingdom (through the Department for International Development – DFID), the Government of the United States of America (through the Department of State Bureau of Oceans and International Environmental and Scientific Affairs), the Government of Canada (through CIDA), the Danish Ministry of Foreign Affairs, the German Federal Ministry for Economic Cooperation and Development (BMU), the Netherlands Ministry of Foreign Affairs, the European Commission (DG-ENV) and the Italian Ministry for the Environment, Land and Sea. General Support for the *Bulletin* during 2008 is provided by the Norwegian Ministry of Foreign Affairs, the Government of Australia, the Austrian Federal Ministry of Agriculture, Forestry, Environment and Water Management, the Ministry of Environment of Sweden, the New Zealand Ministry of Foreign Affairs and Trade, SWAN International, Swiss Federal Office for the Environment (FOEN), the Finnish Ministry for Foreign Affairs, the Japanese Ministry of Environment (through the Institute for Global Environmental Strategies – IGES) and the Japanese Ministry of Economy, Trade and Industry (through the Global Industrial and Social Progress Research Institute – GISPRI) and the United Nations Environment Programme (UNEP). Funding for translation of the *Bulletin* into French has been provided by the International Organization of the Francophonie (IOF). Funding for the translation of the *Bulletin* into Spanish has been provided by the Ministry of Environment of Spain. The opinions expressed in the *Bulletin* are those of the authors and do not necessarily reflect the views of IISD or other donors. Excerpts from the *Bulletin* may be used in non-commercial publications with appropriate academic citation. For information on the *Bulletin*, including requests to provide reporting services, contact the Director of IISD Reporting Services at <kimo@iisd.org>, +1-646-536-7556 or 300 East 56th St., 11A, New York, NY 10022, USA. The ENB Team at SB 28 can be contacted by e-mail at <chris@iisd.org>.